

日本大学大学院生産工学研究科生命工学・リサーチ・センター

第1回研究発表講演会記録（要約）

日時：平成18年3月14日（火）13時～18時

場所：日本大学生産工学部津田沼校舎 37号館 1階 101教室

- 1) 開会挨拶 生命工学・リサーチ・センター 研究代表 神野 英毅
- 2) ご挨拶 日本大学大学院生産工学研究科長 石井 進
- 3) 来賓ご挨拶 文部科学省審議官 林 幸秀 先生
- 4) 講演会出席者

- 1) 開会挨拶：研究代表 日本大学大学院生産工学研究科 教授 神野 英毅

本日は皆様ご多忙のところを、日本大学大学院生産工学研究科生命工学・リサーチ・センターの第1回研究発表講演会にお越し頂きまして誠に有難うございます。特に学外よりご来賓として文部科学省より林幸秀審議官がお越しになられ心から感謝申し上げます。また国内外より共同研究者の先生方のご講演を頂きますこと誠に有難うございます。厚く御礼申し上げます。

先ず当リサーチ・センターの設立の経緯をお話し申し上げます。

21世紀は、バイオテクノロジーの時代とか、バイオの時代などと言われておりますが、不肖私自身が大学卒業以来約40年バイオテクノロジーの研究開発に携わってまいりましたが、現在のバイオテクノロジーが余りにも細かい内容に入っているように感じております。

今回このテーマを進めるにあたり、「生命とは何ぞや?」、生命とは生きて行く生活の内容であり、この観点から生命工学を捉えて行き、そしてその研究成果を、産業に応用し、産業に貢献し、国を富まして行く必要があると考えるに至りました。

地球上で人類が生活する上での基点となる、人間工学及び生活空間を扱う科学と定義し、すなわち私どもの大学院生産工学研究科の土木工学、建築工学及び現在の生命工学の三者が一体となって、各々の接点を探り、初めて真の「拡大された生命工学」の学問領域拓かれるのであります。この意味を込めて「生命工学を応用した資源循環型社会の構築」と言うテーマを掲げました。

昨今の資源の枯渇した社会、環境破壊の社会、生命の危機といった問題を解決し、生命あるものが地球上で生きて行くために、望ましい姿を追い求める、すなわち資源循環型社会から調和持続型社会の実現に向かう大きなテーマに挑戦するのであります。

各研究者が第1年目の研究成果を発表いたしますので、ご聴講賜りかつご高見を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

- 2) ご挨拶：日本大学大学院生産工学研究科長 石井 進

生命工学・リサーチ・センターの第1回研究発表講演会を開催するに際しお忙しいところを、多数お越し戴き有難うございます。

日本大学大学院生産工学研究科生命工学・リサーチ・センターは文部科学省の私立大学の研究振興を目的とした、私立大学学術研究高度化推進事業の学術フロンティア、

「生命工学を応用した資源循環型社会の構築に関する研究」プロジェクトとして、文部科学省より選定を戴いて、平成 17 年度にスタートした期間 5 年の研究プロジェクトです。

本学部では、既に平成 12 年度に「ハイテク・リサーチ・センター」が、平成 15 年度には「水」に関する研究をプロジェクトテーマとした「学術フロンティア・リサーチ・センター」がそれぞれスタートしていますので、この研究プロジェクトは、3 番目の大きなプロジェクトになります。

本研究プロジェクトは 3 つのテーマに分かれ、①生命・生物工学に基づく健康と疾患の研究②資源循環型社会に即したインフラ施設における有機・無機的要因の現象解明と改善に関する研究③生命工学に基づく生活・居住環境づくりと共生に関する研究の 3 研究テーマです、そして生命工学とそれらの学際研究に接点を求め、更なる発展が期待されます。

本日は特に文部科学省審議官林幸秀先生が、お忙しいところにも関わりませず来賓としてお越しく下さいました。心から御礼申し上げます。

又学外の共同研究者の方々にもご講演戴きますと共に学内の 1 年目の研究成果の発表が行われますのでご期待ください。

3) 来賓ご挨拶 文部科学省 審議官 林 幸秀 先生

日本大学大学院生産工学研究科生命工学・リサーチ・センターの第 1 回研究発表講演会の開催に際しご挨拶を申し上げます。日本大学は、その前身である日本法律学校が明治 22 年に創立されて以来、時代の要請を先取りしつつ、着実に発展し、隆盛を続けておられることは、誠に喜ばしい限りでございます。

なかでも生産工学部は平成 12 年度は最先端の機器を揃えた「ハイテク・リサーチ・センター」を、又平成 13 年にはインターシップや総合履修制度をスタートさせ、ハードとソフトの面から教育・研究環境を整備され、又平成 18 年度には、管理学科をマネジメント工学科に名称変更させるなど、今日の激しく変る現代社会に、きちんと対応しておられ敬意を表する次第です。

21 世紀は、新しい知識と情報に基づく素早い変化に対応し、政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる分野で、飛躍的に発展する知識基盤の時代とされています。

さらに国際社会のグローバル化と共に、人材、技術など知的資産の獲得競争が、米国を筆頭に欧州連合、中国などと「知」の世界的な大競争時代が到来しています。

人々の「知」と、「創造力」が最大限の資源であるわが国においては、優れた人材の養成と科学技術の振興は今後の発展に欠くことのできない国の礎です。

わが国の高等教育即ち「知」の創造と継承を大学の役割は重要で、特にその大部分を担う私立大学がその持てる能力を最大限に発揮して戴くことが科学総合立国のわが国にとって大変重要な鍵を握っていると言っても過言はありません。

文部科学省としては、このように 21 世紀を先導し、国内外の中核的研究拠点とするために平成 9 年度に私立大学を対象に学術フロンティア推進事業を立ち上げました。

さらに国公立大学の競争的研究資金導入の仕組み、私立大学の基礎を支える私学助成等の、各種支援につき、文部科学省は全省を上げて取り組んでいます。

本プロジェクトは、平成 17 年度学術フロンティアの審査委員会が先端的プロジェクトとして選定したものです。生命工学、土木工学、建築工学の研究分野が共同して研究することにより、現在の生命工学を、より拡大した研究領域が誕生することを、期待しています。

「生命工学を応用した資源循環型社会の構築に関する研究」は、21 世紀の資源循環型社会の形成を目指すものであり、その特色として「生物・生命」、「生命・環境」及び「生活・居住」の三側面からのアプローチによりこれ迄の枠を超えて、お互い関連しながら活動して、日本大学らしい新しい試みのプロジェクトとして今後社会国民から支持され得るわが国の学術研究の発展に寄与して戴きたい。

これまで培われた伝統と輝かしい実績とを継承しつつ、その成果を社会に還元されることを本日の研究発表講演会を契機として、日本大学大学院生産工学研究科生命工学・リサーチ・センターが研鑽を積まれ、その真価を一層発揮され、発展されますことを心から祈念いたします。

上記文章はご講演の録音テープからの文章化ですのでお含み置きください。

4) 講演会聴講者数

①学部内 (PD,RA 含む)	34 名
②学部外	21 名
③学部学生・大学院生	61 名

合計	116 名
----	-------

以 上